

会 議 録

- 1 会 議 名 令和6年度博物館協議会
- 2 議 題 (1) 令和5年度の事業実績について
(2) 令和5年度の博物館評価について
(3) 令和6年度の事業計画について
- 3 開 催 日 時 令和6年9月13日(金) 13時30分～15時30分
- 4 開 催 場 所 北九州市立自然史・歴史博物館 3階 講座室
- 5 出席者氏名 [協議会委員]
阿部委員、井上委員、緒方委員、鬼本委員、門田委員、
須藤委員、立花委員、富田委員、針尾委員、舟橋委員
(欠席：杉山委員) ※委員 11名のうち 10名が出席
[事務局]
江藤普及課長 他
[博物館]
伊澤館長、月成副館長、真鍋自然史課長、日比野歴史課長 他

6 会 議 経 過 (発 言 内 容)

会長・副会長の選任

協議会委員の互選により、阿部委員が会長、杉山委員が副会長に選任された。

議題(1) 令和5年度の事業実績について

【事務局説明】

令和5年度の事業実績について、令和5年度博物館年報に沿って報告を行った。

【委員意見○と事務局回答●】

- ボランティア(シーダー)の年齢構成をみると高齢化は否定できないが、より若い世代を取り込む必要性についてどのように考えているか。今後どう育てていくか、ビジョンを聞かせていただきたい。

- 若い世代については、ボランティア（シーダー）募集の際に市内の大学にポスターを掲示するなどにより、呼びかけを行っている。若い世代の取り込みは課題であるが、シニア層の生涯学習や生きがい作りの一環としての面もある。研修を毎年行っており、継続してそういう学びの場を提供していきたい。
- 国がミュージアムに何を求めているかが非常に重要と思う。経産省では健康経営が重視されていて、文化芸術と経済という視点で研究会を立ち上げている。若い世代のキャリア形成、社会貢献やインターンシップなどの場として、文化芸術、博物館は大きな意味を持っている。この点も重視した方がよい。
- 不登校児童へのオンライン授業は教育普及の観点から注目すべき活動と思う。具体的にどのように実施しているか教えていただきたい。
- 市教委が実施している、「未来へのとびら オンライン授業」のなかで、博物館は1コマを担当し、オンラインのレクチャー形式で授業を行っている。
- 博物館は様々な教育普及活動を行っているが、参加者の意識が変わったなど、そういう変化があれば教えてほしい。
- 化石のレプリカづくりや、ペットボトルの顕微鏡づくりなど、教室ではできない内容を体験できている。茅葺き屋根の家の中で、子どもたちが興味深く歴史課の学芸員に訊ねている姿も見ている。教室では体験できないようなところで、子どもたちの記憶に残っていくと思う。
- イオンモール八幡東店で出張展示を行っているが、このような出張展示は継続して実施した方がよい。
- 昨年度に引き続いて、本年度も夏の特別展期間中、同店で、恐竜のほか夏・秋の特別展を紹介する出張展示を行っている。この夏は隣の科学館への出張展示も行った。他施設からの依頼もあり、今後も継続していきたいと思う。

議題（2）令和5年度の博物館評価について

【事務局説明】

博物館(事務局)の自己評価については、事前に各委員に送付しているので、説明を省略した。

【外部評価小委員会説明】

- 外部評価小委員会案についても事前に送付し、各委員が検討し、意見を提出している。自己評価と外部評価はほぼ一致しており、委員の意見を中心に、外部評価小委員会委員長（協議会会長）より説明がなされた。

【委員意見○と事務局回答●】

- 1) 資料収集・保管活動について
 - 将来に向けて、資料のデータベース化は非常に重要であると思われるが、その推進に向けて努力していることは評価できる。
- 2) 調査研究活動について
 - 外部研究費の獲得や、学術雑誌への論文掲載など多くの活動がみられ、学芸員の日々の努力を感じる。
- 3) 展示活動について
 - 市制 60 周年記念事業におけるリニューアルや、特別展における剥製の展示などをみても、よりわかりやすく、美しく「見せる」ということに取り組んでいることが感じられた。生き生きとした生態や、動きの感じられる展示は見る人に臨場感を与え、興味に繋がる工夫がなされている。今後もこうした見る人の視点や感覚を大切にした展示を行ってほしい。
- 4) 教育普及活動について
 - コロナ後、順調に教育普及活動が増加し、実施されている。
 - 「みらいへのとびらオンライン授業（中学校理科）」が博物館が社会に貢献していることを示す取り組みであることをアピールしてはどうか。
 - 本市の教育委員会が行っている「みらいのとびらオンライン授業」については、不登校児童・生徒が社会と繋がる機会が得られる取り組みと考えており、博物館も協力している。課題解決に向けて、博物館として今後も協力していきたい。
 - 教育委員会と博物館の連携によるこの取り組みに対しては、令和4年度の年報に「久しぶりに博物館に来ました」という感想が寄せられている。子どもたちは博物館活動や研究成果をきちんと受けとめている。この事例はすごいことで、全国に伝えてほしい。
 - 緒方委員のグループは文化庁の助成で、「不登校・引きこもりと博物館」をテーマとした事業をされている。ぜひ研究の成果をご教示いただきたい。
- 5) 広報・情報発信活動について
 - 近年では SNS による発信が、気軽に受け取れて小さな興味に繋がるという意味でも発信ツールとして重要になってきているが、そうした SNS の活動が活発化してきていることは、今後のより効果的な情報発信に繋がると思われる。
- 6) 市民との協働活動について
- 7) 社会貢献活動について
 - コロナによる影響が収まりつつあり、市民との活動が再度活発化してきたことは、博物館の存在意義をより高めるものとして期待できる。
- 8) その他（北九州ミュージアムパーク創造事業）について

- 市の部局の再編により、統一されたこともあり、東田に存在する基幹施設として、今後も施設間の連携を充実していくことを願っている。
 - 部局再編により、市の文化・観光・スポーツの各部門が統合され、都市ブランド創造局となった。それにより、博物館を活用した文化観光の推進体制が整い、観光部門との連携がより円滑になったと感じている。
 - また、科学館が博物館と同じ都市ブランド創造局の所管になったため、連携を行いやすくなった。
 - 環境ミュージアムは従来どおり環境局の所管だが、今年度も、北九州ミュージアムパーク創造事業の中で、子どもスクールを開催するなど、東田地区にある各館の特性を活かした連携を継続したいと考えている。
- 9) 博物館評価全般について
- 評価指標が定量的なものが多く、定性的なものが少ないところに課題があると感じる。
 - 博物館評価を開始して5年が経過した。これまでも評価方法についていろいろな意見をいただいている。ワーキンググループを設置して、具体的な見直しの作業に着手したいと考えている。
 - モニターによる評価もあり得る。アンケート調査は内容や方法を十分に検討する必要がある。
 - 博物館の子細な年報と評価が対応しているのが分かりやすく、整合性が取れていてよいと思う。

議題（3）令和6年度の事業計画について

【事務局説明】

令和6年度事業計画について、1 組織・運営体制、2 予算、3 展示会・イベント等（「東アジア友好博物館交流事業」「北九州ミュージアムパーク創造事業」を含む）、4 これまでの入館者数（8月×）の順に説明を行った。

【委員意見○と事務局回答●】

※北九州ミュージアムパーク創造事業について

- 「ぽけっとミュージアム6を「生きた化石コーナー」へ展示更新」とあるが、英語の「living fossil」の訳語と思うので、「生きている化石コーナー」が正しいのではないか。
- 確認したうえで、正確を期したい。
- 「歴史資源アーカイブの構築」については大変重要な課題と思うが、具体的にどのように実施するのか。
- 本事業の前の「東田ミュージアムパーク創造事業」では、東田地区、つまり官営製鐵所の開業以降の歴史を重視し、近代資料や近代化遺産

に重点を置いてデジタルアーカイブを構築しようとしていた。その後「北九州ミュージアムパーク創造事業」に移行し、中核館である当館の歴史資料や自然史標本にまで対象を広げた。博物館資料のデジタルアーカイブ化については、昨年4月に施行された改正博物館法に明記されており、博物館にとって大変重要な課題である。既存のシステムを利用し、本格的なデジタルアーカイブ化に先立ち、まずは試行的にデジタルアーカイブ化を行っている。

- 「博物館ホームページのリニューアル」について、「外国人観光客の興味関心を惹くような日本語版とは異なった目線でのホームページ」とあるが、今のホームページの何が問題で、どのように「リニューアル」する計画なのか教えてほしい。
- 現在のホームページは文字情報が多く、写真等を使ったインパクトが少ないことが問題である。そのため、当館の中心的な利用者である子ども・児童や外国人には博物館の魅力を伝えきれていないと考えている。そこで、来館の多い韓国と中国のネイティブの方にも参加してもらい、コンペ形式で制作業者を決定した。現在は担当職員と制作業者で協議しながら、魅力的なホームページの構築に努めている。
- ホームページ閲覧の国別アクセス数などについて解析を行っているか。
- 手元に詳しいデータはないが、韓国が一番多い。中国本土より香港や台湾の方が少し多いと思う。

議題（4）その他について

【委員意見○と事務局回答●】

- 秋の特別展の詳細を説明してほしい。
- 小さな子どもが多い博物館で、歴史は難しいという声があったので、歴史はいまの自分たちとの繋がりがあことを知っていただきたく、身近なテーマとしてお菓子を選んで、展覧会を企画した。
- 今回は古代から江戸時代までに焦点を当てた。時代を象徴するお菓子が描かれた絵画資料や古文書などを展示しているので、いつもの歴史系の展覧会とそれほど変わらないが、お菓子を切り口にするすることで、楽しみながら歴史をたどっていただけるのではないかと。
- 日本遺産にもなっているが、旧長崎街道沿いの菓子文化を「シュガーロード」と呼んでおり、それを取り入れて、近現代をカバーしたいという思いがある。シュガーロード連絡協議会と連携し、10月12日に「シュガーロードマルシェ」というイベントをおこなう予定である。
- チラシやポスターはA3版で作成した。資料の画像を載せると小さく

なるので、子どもや女性をターゲットにして、あえてイラストで装丁した。国立科学博物館の助成を受けて、自然史と歴史と科学の目線を取り入れた展示手法の検討というテーマを立て、様々な展示の工夫やイベントを行う予定である。

- 館内の掲示については、すでに設置しており、特別展終了後には追加したいと思っている。
- 自然史と歴史の連携だけでなく、人文系に関わる連携やネットワークについて、何か取り組みがあれば教えてほしい。
- 特別展を開催する際には他館に出品協力を求めることになり、様々なレベルで信頼関係を構築することが求められる。一例だが、令和2年度に開催した特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き」においては、大名道具を所蔵する県内の博物館等の施設との連携に加えて、歴史と美術、大学の専門研究者（アカデミズム）と学芸員（ミュージアム）など様々なレベルの連携を組織して、展示の充実と深化を図った。
- アートというエッセンスを入れると、もっとわくわくする内容も可能と思うので、連携を考えていただきたい。
- 北九州市内には様々なミュージアムがあり、公立も私立もあるので、市内でも周辺を含めても様々な可能性がある。頑張っていきたい。

7 問い合わせ先

都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館

電話番号 093-681-1011